

大臣従二位という職から、左遷という名に替わることなどは一体どうしたことか。」の句意で、「右」と「左」を対比させた表現である。「左遷」の語は『漢書』『周昌傳』に「吾極知其左遷」、(注)帥古曰、是時尊右而卑左、故謂貶秩位、為左遷」とあるように、「官位を降しおとす。官を卑しくして遠地に流す。貶謫」の意である。

『漢語大詞典』では「降官・貶職」と説明する。『菅家文章』187 北堂餞宴、各分一字」に「我將南海飽風煙、更妬他人道左遷」の句が、又『菅家後集』511 代月答」に「天廻玄鑑雲將霽、唯是西行不左遷」の句が見える。

5○貶降…官位を落としりぞけること。貶退。

『漢語大詞典』には「貶官降職」と説明し、元稹の「中書省議拳縣令狀」にある「本舉良能、冀蒙優獎、皆居破碎之處、恐同貶降之條」の例を引く。

類語の用例として『菅家後集』「485 秋夜九月十五日」に「昔被榮花簪組縛、今爲貶謫草萊囚」の句が見える。

○輕自芥…「芥」は「小さい草。転じてあくた。ごみ。ちり」の意。川口久雄氏は大系本の補注で「日本的表現。〈輕〉に接続する語は〈塵〉の字である」と言及されている。ここでは、「塵芥より軽くあしらわれ」と解した。

6○駈放…馬をむちうつかのように駆り放り出されること。『漢語大詞典』には「策馬奔馳」と説明する。

○急如弦…「弦」は「急」の意。

『説文』『段注』に「弦、有急意。故董安于、性緩佩弦以自急」の説明がある。川口久雄氏は大系本の